

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：金谷東町自治会

開催場所：金谷東会館

開催日時：平成 28 年 10 月 4 日（火）19 時 00 分～21 時 00 分

参加者：自治会側【地域住民の方 30 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、三浦秘書課長、浅田金谷南北地域総合課長、秋山協働推進課長、清水金谷南地域総合課係長】

内 容

① 大倉自治会長あいさつ

- ・市長をはじめ、市の皆さんにお越しいただきありがたい。
- ・この車座トークは金谷東町が金谷地域の中でトップということで大変光栄に思っている。
- ・市長の市政報告、住民の皆さんとの意見交換を通じて東町をより良くしていきたいと思っている。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといふこと実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、特色や人材、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいといふことでまわっている。
- ・金谷地域にある 17 自治会のトップを切って金谷東町自治会さんに伺うことができた。
- ・合併して 11 年が経過した。今の状況を正直に申し上げると、金谷地域が一番発展の可能性のある（大きな投資を控えている）地域であると考えている。

■金谷東町自治会の人口、世帯について

- ・金谷東町自治会の 9 月 30 日現在の世帯数は 758 世帯、人口は 2,149 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 637 人、高齢化率は 29.6%となっている。市の平均が 29.5%、市の平均とほぼ同じとなっている。15 歳以下の人口は 340 人で人口に占める割合は 15.8%となっている。市の平均は 13.8%なので子どもの数は多い。住みやすい地域であると思っている。

■地域の抱える課題等について

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。どんなに努力しても、40年後には人口は約2割減少するという推計も出ている。
- ・人口が減少すると、空き家が多くなって空き地が多くなる。高齢化率が今よりも上がるということになると、働く人が今よりも少なくなり、(人口の約5割の人が生産年齢人口となる。) 税収も減少していく。
- ・一方、高齢化に伴い、福祉、医療、介護の経費は増えていくことから、皆さんが元気で安心して暮らせる施策が必要となってくる。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計(老後についても)ができた時代であった。
- ・今、都市は拡大、発展、拡散していく時代(20世紀型)からコンパクト(集約)な都市にすることが望まれている。高齢者の方が集って暮らすことで助け合って安心して暮らせるであろうし、行政も行政効率を上げていくことができる。
- ・量的な発展から質的な発展が望まれる時代。安心して暮らしていくためには、行政を頼りにしていた時代とは異なる時代になっていく。
- ・皆さんが助け合いながら地域課題を一緒になって考えていく必要がある。このために、居場所づくり事業を実施していただいている地域もある。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。
- ・市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。
- ・防災、高齢者の見守りなどそれぞれの地域の課題に取り組む、行政も一生懸命やるが、行政の手の届かないところを地域で協力して安心して暮らせる地域の仕組みづくりを作り上げることに取り組んでほしいと思う。
- ・そういうことができる地域が、安心して暮らせる地域として選択してもらえる地域となる。
- ・島田、金谷は住みやすいところであると皆さんから言ってもらえている。警察署の署長などは19回目の赴任先であるが、住みやすいところであるとお世辞なしに言ってもらっている。
- ・
- ・待機児童ゼロを目指して、0、1、2歳児用の保育園の整備や、若者世代に向けた施策、皆さんが健康で長生きして暮らしていける施策に取り組んでいる。これは、行政の役割のベーシックなところ。
- ・新病院の建設については、事業費は今現在、247億円の事業費を見込んでいるが、精査した詳細の事業費は今年度末には皆さんにお示しできると思う。
- ・小中学校25校もほぼ同時期に建てられたものが多いことから、老朽化する直の同時期になる。今、その建て替えの時期になってきている。市役所も築53年である。

- ・公共施設は 276 施設 663 棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの 40 年間で 2,515 億円かかる。年間 63 億円にもなる。今は維持管理・更新に年間 36 億円かけているので、その 1.75 倍となる。このことから、施設のあり方を検討をしていかななくてはならない。
- ・今までの行政とまったく違う課題に向き合いながら市政を運営している。
- ・皆さんの生活を守りながら、一方で、移住定住施策、企業誘致の施策、市内で操業する企業が一人でも多く雇用できるような施策に取り組む必要がある。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の 4 者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ 1,400 ㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鉄は新駅建設も検討している。また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約 1,000 台弱の駐車場を造る予定となっている。
- ・基本計画の内容については、11 月から 12 月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの 4 車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JA の視点の交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最短で平成 30 年 5～6 月に着工できる計画で頑張っている。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84ha を内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題がある。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。現在、企業に戸別訪問しながら頑張っている。
- ・(賑わい交流拠点、新東名島田金谷インターチェンジ周辺は、) 島田の活路を見出していく地域である。

■お茶の郷と旧金谷中学校跡地の利活用について

- ・お茶の郷は今年の 6 月 1 日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。
- ・旧金谷中学校跡地は、マーケットサウンディングといって、どのくらいの企業が進出するかといったニーズ調査をしている。県と連携して、今年度中に事業者の方針を決めていきたい。

・市が土地を提供し、上物は県が整備するという今までの経緯の中、県も予算化が難しい中で民間の活力を活かした取り組みによってにぎわい、雇用などを創出することを目的とした整備を目指している。

■その他金谷地域への取り組み

- ・金谷地域は今投資が集中している。それだけ可能性がある地域である。
- ・牧之原公園（夜景 100 選に選ばれた）の整備についても、トイレの位置を変え新しくし、展望台の拡張、ベンチの新設などを行っていく。
- ・菊川のインターのフルインター化も進めている。災害時の物資輸送路（命の道）となることから、国にも要望している。
- ・国も道路の予算が今までの 3 分の 1 になっている現状において、ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。（ストック効果を示していく必要がある。）
- ・道路は長いものでは 40 年くらいかかる。去年の 3 月に開通した島田吉田バイパス（旭町から国道 150 号まで）は完成までに 40 年の期間を要した。
- ・国道 1 号バイパスの 4 車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて要望をしていく。
- ・金谷インターチェンジの利用台数を今の倍くらいに増やすことができるのではないかと考えている。

■産業支援センター（おびサポ）について

- ・島田市産業支援センター（おびサポ）を 4 月 12 日に開設した。地元の中小企業に皆さんへの創業、起業支援、補助金などの相談などに応じている。
- ・主に島信の支店長クラスが相談に応じている。相談時間は 1 時間くらいで、年間 1,200 件を想定していた。この想定件数を 4 か月足らずで超えている。
- ・近隣市町からも相談者が来所している。あらゆる相談に対応できるように、事前予約によって、その相談内容に応じてスタッフを用意する配慮もしている。

■まちづくり支援事業交付金について

・まちづくり支援事業交付金については、昨年度まで 1 団体が 1 回限りの交付金で一般分 10 万円（30 万円という特別分もあった。）だったが、地域の団体（人材）の育成を目的に、年間継続して 180 万円を上限に交付する制度に改めた。プレゼンテーションをしていただく必要はあるが、落とすための審査ではないと考えている。

■新病院の建設について

- ・現在基本設計を策定している。ほぼ固まりつつある状況である。
- ・東側の駐車場のところに T 字型の建物になることを想定している。7 階建てを想定し、屋上にはドクターヘリが駐機できるヘリポートを設け、診療科目

数はほぼ今と同じ。病床数は 445 床で計画をしている。

- ・地盤については、岩盤までの距離はあるが上に粘土層があって液状化しにくい。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。(土壌改良も行う。)
- ・今の建物の中で、残すものは、救急棟と健診センター。健診センターには 4 月からはじめている 24 時間訪問看護ステーションが入っている。
- ・救急棟（1 階部分）は透析センターにしていきたい。事業費 247 億のうち 50 億円は医療機器の購入費である。
- ・開院は平成 32 年度の末の予定。平成 30 年度から建設工事となる計画。
- ・新病院建設後、引越しをして、今の病院を取り壊し、そこを駐車場として整備する。
- ・医師の数は 90 人くらい。医師の確保も重要である。
- ・医師の確保については、市民病院は昔から京大系といわれてきた。
- ・しかし、京都大学からは面倒を見れないと言われている。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりとおさえていきたいと思っている。今月は麻酔科の先生が派遣されている。
- ・「ちょうしんき」という市民病院の広報誌が各戸に配布されているが、この中に島田市民病院は紹介状が必要ない診療科目と必要な診療科目が記載されているのでご覧いただきたい。(紹介状が必要ない診療科目の方が多い。)

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■防火水槽の設置について</p> <p>東町は 9 区 51 班ある。往還下土地区画整理の範囲を含む 4 班は、自治会の 5 分の 1 の世帯を有する。</p> <p>77 世帯の新興住宅の区域があり、この区域に防火水槽がないことから、地元の初期消火のために 40 トン級の防火水槽を 1 基の整備をお願いしたい。【図面の提示あり】</p> <p>東町では来年度から区の新設を考えている。</p>	<p>●防火水槽は 9 区全てにあるのか？</p>
1-2	<p>■専用のところは 5 区、あとは兼用の区ものもある。東会館にも防火水槽が整備されているが、距離的な要因を考慮して新設をお願いしたい。</p>	<p>●危機管理監を現地に派遣するので、その中で説明をお願いしたい。地域の防災計画についても御相談いただきたい。</p>

2	<p>■東町のまちづくりについて</p> <p>東町の女性は何人いるのか？</p> <p>一世帯あたり2、3人住んでいるということになる。超高齢化の時代となった今、高齢者と若者との考えの相違が有ることも事実。このため、皆が人間力を持たなければいけない。(自らが考える力を持つこと。)自治会も応援してくれるので、月に4回程度、歌や体操などを実施している。東町の758世帯は裕福に暮らしている中で危機感がない。しないの他の地域のボランティア活動の内容を聞くと、この地域も皆さんに応援してもらって、若い人にも入ってもらって活動をしていかなければならない。</p>	<p>●即答はしなかったが、1,081人となっている。</p> <p>まさにその通りで、静岡県民は気候風土の影響もあると思うが、依存する気持ちが強いかもしれない。</p> <p>主体性が我々に必要であると思う。</p> <p>言い過ぎかもしれないが、道路に大きな穴があいている場合、市の責任ではあり直さなければいけないが、少しよけて通ってほしいと言う気持ちもある。穴があいていることを教えてくれたらすぐに直しに行く。みんなで助け合っていかなければならない。</p>
3	<p>■転作に対する助成金について</p> <p>基幹産業がお茶であるため、茶業への投資が多くなる傾向があるが、お茶離れしている現状において、お茶農家の後継者を確保するためにも、漢方薬の畑、ブルーベリー、オリーブなどを耕作するために必要な助成金は出せるか。</p>	<p>●そういう助成金はある。(農林課に御相談いただきたい。)</p> <p>この地域はお茶に最適な土地であった。お茶以外にこの土地にあった作物を探す必要もある。JAも支援をしていて、例えば葉生姜を栽培して静岡に出荷している例もある。</p> <p>新規就農者に対する助成金については、今までは国から10分の3で300万円まで助成されたが、ここに市が10分の1を上乗せするように9月補正で増額している。</p> <p>先日、台湾に島田のお茶を売り込みにいった。</p> <p>台湾では緑茶は人気がある。ただティーバックで飲む。しかも有機でないとならない。有機農法は山間の農薬が飛んでこない土地が求められる。</p> <p>金谷地域では、西原、切山で若い人が中心となって茶業に挑戦をしている。市も最大限の応援をして、お茶で食べていけるような、農業に携わるきっかけをつくっている。</p>
4	<p>■まちづくり支援事業交付金について</p> <p>交付金について、前年度からプレゼンをやったりしているが、申請期間が短い。ホームページで広報していたが短い。(申請できない可能性が高い。)</p>	<p>●申請期間と広報の仕方については改善をしていく。</p> <p>プレゼン仕方、書類の書き方については事務局にご相談いただきたい。</p> <p>職員が付いて書き方等をご案内する。(そこについても広報してほしい。=質問者から)</p>

<p>また、一般の方は申請書の書き方になれていない。書類を書くことがままならない人が交付金をほしいと思う。そういうことから申請書を書くことが得意な人が交付金をもらっている。</p> <p>市議会議員をやった方、市の職員がこういうところに出てきていない。自治会活動やボランティアに参加していない。一番ノウハウを持っている人たち。そういう人たちが、そのノウハウを生かして活躍したらどれだけよくなるか。職員を育てると言う意味で検討願いたい。議員にもお伝え願いたい。</p>	<p>市の職員、OB、議員が地域活動に出てこないと言う御意見については、地域の皆さんにとっては職員の以前に地域の一員である。</p> <p>職員の方としては、職員なら行政のことを何でも知っていると思われているのではないかということがたぶん負担になっているのかもしれない。一住民として扱っていただければ、職員も出やすくなるのではないかと。折に触れて、色々な活動に参加するように職員には伝えていく。</p>
<p>5 ■島田市と金谷町の合併について</p> <p>合併して11年たってメリットはない。道路は多少なりとも良くなっている感じはする。</p> <p>(合併して)金谷地域でやっていた行事(特にお祭り)がほとんどなくなってしまっている。地域おこしと言っても、そういうことをやっていかないと人が集らない。東町の体育大会も今年が最後だそうだ。</p> <p>結局、人と予算がない。何かやらなければ人は集らない。</p> <p>年寄りが力つきて公園の草刈もできない。まちおこしに対しての助成をしてほしい。</p> <p>金中跡地も行政の考え方が変わっていくと、話が前に進まない。</p> <p>大鐵の新駅については、減便をしている中で誰が乗るのか。</p> <p>金谷はアクセスがいい地域。なぜ発展しないのか。五和が発展することによって駅前通は寂れている。</p> <p>活性化を細かに考えてやってほしい。将来的に本当にできるか慎重にやってほしい。地元のためになるような事業をやってもらいたい。</p>	<p>●今までやってきた行事が全てできなくなったのは助成金がなくなったからなのか。</p> <p>一生懸命やっている地域もあれば、新しいイベントを創り出している地域もあって、合併したからこうした行事がなくなってしまったのではない。他の課題があると思っている。地域が必要であれば、どうしたら続けていけるかということ自分たちが主体的になっていかないとならない。(補助金がなくなったことによってやめてしまうことでは地域の持続可能な発展はない。)</p> <p>地域をつなぐ大事なことは、日ごろの付き合いだと思う。それを生むのは祭り、体育大会などに参加してみんなで楽しむこと。</p> <p>合併のせいでできなくなったのかを皆さんと話し合いをしたいと思う。</p> <p>公園の草刈については、市内いたるところで出てきている。川ざらいについても高齢化で出られない人には出不足金をとっているところがある。</p> <p>市にやってもらえないかと思っているところを、燃料代や機材の提供などでやってもらっている取り組みもある。職員は行政改革で数は減って、業務が増えている中で大変な時代。</p> <p>そうした要望については「すぐやる係(土木管理課)に言ってほしい。</p> <p>メッセは時代の流れの中で変わってきたことだが、自分の言ったことは成し遂げたい。大鐵の新駅については、観光鉄道に特化して、それを公共</p>

		<p>鉄道に還元することにしていきたい考えがある。増便についてはお願いをしているところである。</p>
6	<p>■（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムについて</p> <p>今日は金谷地区に発展性があると聞いてうれしく思う。</p> <p>金谷町時代には、町民に対して行政が手厚く色々なことをやってくれていた。町民大会でも行政がお膳立てをしていた。町民はおんぶに抱っここの時代だった。そうではなくて支援がなくなっても、下から盛り上げていく力が金谷の人たちにつけばと思った。</p> <p>お茶の郷について、（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムの内容について知りたい。</p>	<p>●お茶の郷博物館に機能が足りないもの、例えば、お茶の効能、お茶の産業といった部分についてはない。歴史・文化も含めこの部分を補完して、バランスよくご案内できる施設にしたいということ。また、分野別学芸員の配置やエレベータの設置、大井川流域産の木材を活用したいということ。</p> <p>和室のリニューアルや売店、レストランは専門家の意見を聞きたいこと。このようなことを知事は考えているようだ。</p> <p>和食を世界遺産にした熊倉功夫先生さんは、ずっと関わってくれていて、この計画の座長を勤められており、お茶の郷はライフワークだといって携わっていただいている。</p>
7	<p>■稼ぐ方策と今後のまちづくりについて</p> <p>お金がないと何もできない。お金が入るようなことをやっていかないとならない。</p> <p>新東名のインター付近は、東京と大阪の中間点なので、観光バスの運転手の交代などニーズがってやれば成功するとは思いますが、お茶と言ってもニーズがなければしょうがない。高く売れなければしょうがない。</p> <p>若い人たちがここに住むことが必要。住みやすい環境。住めるという環境。古い人の慣習を押し付けても若い人は来ない。価値観も違う。価値観にあったことをしないと人口は増えない。</p> <p>住宅地の近くに廃棄物処理場があったら住めなくなる。このため、用途分けをしっかりと、住宅を集めて（コンパクトに）助け合うようなことが必要。</p>	<p>●若い人が住むために必要なことは仕事と住むところ。</p> <p>大井川流域の内陸フロンティアの魅力は、大井川の豊かで良質な水があることが優位性である。一定の産業にターゲットを絞っていく必要はある。</p> <p>観光バスの500kmの制限については、関東から家山だと往復500kmを超えてしまうので、にぎわい交流拠点の場所にバスを置いて、あそこから奥に誘客したいという思いで取り組んでいる。</p> <p>産廃については、周辺の御理解なしに進出できないし、東町というまち中にできるというのは、今の時点では考えられないことである。住み方としては、地域の拠点を一ヶ所に集めて、住む場所もそういう場所に集めて、拠点同士を公共交通でつなげる（コンパクトアンドネットワーク）としての仕組みをつくらなければならないと思っている。</p> <p>余談ではあるが、団塊の世代は8割が自分の家を持っている。団塊ジュニアの世代は6割が自分の家を持っている。そのままにしておくと、何十人もの判子が必要になる。その土地や建物を売ることもできない。法律で義務化されていないが、次世代が困ることになるので、相続手続きはするように願います。</p>

8-1	<p>■農振の除外について</p> <p>宮崎町の農家で田んぼを所有している人が、長男が自己の農地を活用して家を建てたい、次男も同様に家を建てたいと思っていたが、許可にならなかつたそうだ。結局、長男も次男も他市に家を建てた。</p> <p>許可にならなかつた理由が、往還下を改良したために、その起債があつて、その起債がなくなると建てられないと聞いたが本当か。</p>	<p>●そんなことはない。農振を外さないと家は建てられない。</p> <p>農業振興地域はお茶もよかつた時代には、圃場整備をして、国の補助金をもらうために、農業振興地域という指定をかけてきた。</p>
8-2	<p>■それはわかる。</p> <p>青地のところは5,000円でも買わないという状態。金谷の農業委員の時には簡単に除外できたが、合併したら除外できなくなつたと聞いている。</p>	<p>●起債と農振除外の話は違う。</p> <p>国は、自給率を上げるために、初倉は大きな道路のその脇30mくらいは以前は除外が簡単だったが、今は全然できない。</p> <p>往還下や合併の性で除外できないのではなく、農地を守るための国の施策である。特に、水を引いた受益地は、お金を返し終わつても8年間はどうにも土地を動かすことができないということもあつてその田んぼに家が建たなかつたと思う。</p>
9	<p>■通学路の見守りについて</p> <p>往還下に家ができたおかげで、通学路が往還下の方にもできた。</p> <p>このため、旧の通学路（現在も利用している）における見守り（保護者）が少なくなつた。時間間際に来る児童が危険である。</p> <p>大きなことを考えて構想を求める考えはないか。</p>	<p>●時間ギリギリに通学してくる児童の見守りについては、いつまで立っていたらいいのかということもあるし親の責任でもある。ボランティアで見守りをさせていただく方の時間や家族のことなどもあるので、決められた時間内で見守りをさせていただいて、見守り時間外に登校する児童がいれば、それは親の責任であると思う。</p>
10	<p>■島田市緑茶化計画について</p> <p>首都圏に住む方にお茶をお土産にしようとしたら、急須がないのでいらないといわれた。緑茶化計画をやっている以上は、茶業者、茶農家もペットボトルで売れるお茶を考えたほうが良い。</p>	<p>●役所の中ではペットボトルは禁止にしている。島田に来たお客様には、いいお茶を淹れて、志戸呂焼の茶器でお出ししている。こういうことが大事だと思っている。ティーバックでもいいお茶であれば、おいしいお茶を飲めるので、飲み方、売り方の方法は研究の余地があるので、JAとも連携してやっていきたい。</p>
11-1	<p>■広域の行政の連携について</p> <p>市長は3市の市長との会談をはじめ、3市とのつながりを重要視しているように思われるが、大井川の水を中心に考えると7市になると思う。大きなことを考えて構想を求める考えはないか。</p>	<p>●広域（行政）の連携は3市だけとは思っていない。5市2町、7市も常に連携のパートナー。リニアの関係では7市で常に行動している。それぞれの課題にあわせてパートナーの組み方は変わると思う。どちらかという中部の自治体との連携が多いので、西部の自治体とは連携の頻度が低い</p>

		かもしれない。
11-2	<p>■新幹線新駅ができれば、そこが中心都市になると思う。例えば合併した場合には。そうした大きな構想を、将来的に見てほしい。</p>	<p>●合併の嵐が吹いて約10年が経過した。全国的にみて、合併が成功したのかわからないというのが大半の見方。合併して10年間は、合併した市町がもってきた交付金をもらえるが、それ以降は、交付金は減らされていく。</p> <p>しかし、公共施設も重複しているものもあれば、福祉のサービスは広範囲になり、施設の維持管理にも経費が掛かる。</p> <p>こうした中、合併に代わるものとして広域連携があると考えている。</p> <p>5市2町や7市などの連携もその一つ。</p> <p>空港新駅ができて、あそこが新しい都市の拠点になるかどうかについては、あそこでは広がる場所がない。人は集るかもしれないが、都市の中心にはどうかと考える。空港新駅ができると、スピードを出すことができない。リニアができて新幹線の本数が減れば可能性はあるかもしれないが、知事が言う2020年を目指すことは難しいと言うのがJRの考え方であろうと思う。</p>
12	<p>■緑茶の消費（活用）について</p> <p>この地域のお茶はおいしくて、農家の皆さんも努力されている。</p> <p>飲み手が極端に減ってきていることも事実。</p> <p>市内の和食の店でもほうじ茶が出てきた。県内のホテルでもほうじ茶が出される。静岡県で推進している緑茶がなぜ、レストランやホテルで出せないのかと残念に思う。</p> <p>金谷のザ・ビックというスーパーに給茶機があるが、そのお茶は、掛川茶になっている。</p> <p>これは県下の問題であると思うが、もっと緑茶を使ってもらう運動をしない限り、いいお茶を作っても飲み手が少なくなってしまうのは商売にならない。島田市長だけをお願いすることではないが。</p>	<p>●おっしゃるとおりだと思う。ザ・ビックには金谷茶と書かないとお客さんが来ませんよと言わなければならない。</p> <p>飲んでいただく施策は重要で、台湾では、台湾のお茶を使った商品をラインアップしないとスターバックでも開店できない。</p> <p>お話を伺って、何とかしなければと思っている。茶振協とも相談して考えさせてもらいたいと思う。</p>
13	<p>■浜岡原子力発電所について</p> <p>原発を廃止（炉）しないという、災害が起きた場合全部ダメになる</p>	<p>●浜岡原発の再稼働については認めない方針。しかしながら、地元4市では原子力発電に対するスタンスが違う中、国の施策で決めていくという</p>

	<p>ので、対応が重要だと思うので、広域（行政）の協力で対応していただきたい。</p>	<p>中であっても、市民 10 万人の命を守る観点から、10 万人を安全に逃がす方法は今のところ見つからない。計画はあるが、それが実効性が伴うかという難しい課題もあって、浜岡の原発に限っていうなら再稼動は認めない。県も中電も地元の意向は聞いてくるはずだと思っている。そのためにも安全協定を結んでいる。</p> <p>浜岡原発で万が一のことがあった時には、島田に原子力の風が流れてくるのは、南風が吹いた時だけ。その南風が吹くのは年間で 10% 程度。その時々風によって大きく左右される。色々な課題はある中で、情報開示しながら皆さんにお伝えをしていきたい。</p>
--	---	--

※ 回答は全て市長から回答した。